

## Contents

平成24年度海外科学系博物館視察研修報告	2
海外博物館事情	10
7月8月の特別展等	12
リニューアル情報	15
トピックス	16

平成24年度海外科学系博物館視察研修報告



# 平成24年度 海外科学系博物館視察研修報告

平成24年度海外科学系博物館視察研修では16名の方にご参加いただき、平成25年1月14日（月・祝）から12日間にわたって、オーストリア、イタリア、スイスの5つの施設を公式訪問しました。参加の皆さんに、各館に関する視察内容と全体を通しての感想を執筆いただきました。

## ZOOM子ども博物館

### ZOOM Children's Museum



ZOOM子ども博物館は、1994年に設立されたオーストリアで初の子どもを対象とした私設博物館であり、ウィーン市内の博物館、美術館が集まるミュージアムクォーター地区に所在する。施設名称のZOOMは、「はっきり見る」や「よく観察する」という意味を持っており、子ども達が自分の好みや関心に応じて、ものに触れ、創作し、遊ぶ機会をもつことで、外界の様々な事象について個々の感覚で探求していく機会を提供していくことを目的としている。

施設は子どもの年代別に4つの展示コーナーがあり、6～12歳を対象としたコーナーでは「家族」をテーマにした展示を行っていた。家族はどのように構成されるのか、どのような姿があるのかなど、家族の概念や抱える課題を子ども達自身が感じ取り、考えていくというコンセプトであった。広いスペースに壁面を造作し、小さく仕切られた連続する部屋を見学していくという動線で、結婚式の様子や子どもの出生など様々な家族の生活場面が展開されていた。このコーナーでは、始めにスタッフから子ども達に「家族」について話題を投げかけ、その反応を見て課題を与え、部屋の展開に合わせて体験しながら考えさせていくプログラムとなっている。

過去には、「水」や「死」をテーマに企画展を開催したこともあり、子ども達がもつ感性や創造性を豊かにする仕掛けづくりを行ってきたという。

8～14歳のコーナーは、トリックルームとしてアニメーション映画を作る設備を有している。子ども達はグループになって映画のストーリーを決め、映像作りや音入れ等を行っていくことになるが、1グループの作業は90分程度のプログラムのため完成までには至らず、別のグループが訪れた時に次の作業を担当し、リレー方式で作品を完成させていく流れとなっている。完成品はインターネットで公開することにより参加した誰もが達成感を味わうことができる。この間、スタッフは最低限の助言のみとしており、また、子ども達の作業が不平等にならないよう注力しているとのことである。

3～12歳を対象としたコーナーでは、部屋の数か所に砂場が設けられており、用意されている道具を自由に使って自己表現していく場となっている。2人の芸術家がスタッフとなり、テーマを与える以外は子ども達の自由な発想に任せ、創造性を引き出すサポートを行っている。

8ヶ月～8歳を対象としたコーナーは船を模した立体的な作りになっており、船上や周囲を冒険するストーリーのプログラムが用意されている。保護者と一緒になって遊び感覚で創造性を養う体験の場を提供している。

運営予算は国の補助金が60%強、他に入館料、施設貸出料、民間スポンサー料等で賄われている。館の利用は学校や保育園などの団体利用が主となっており、スタッフがエントランスにおいてガイダンスを行い、グループ毎に各コーナーでの体験を進めていく方式をとっている。スタッフの多くは芸術アカデミーの学生で、本人にとっての収入源



☆子ども達で賑わうエントランス

となる上、芸術等の自己表現の場にもなるために大変人気があるようだ。子ども達にとっても、芸術家と一緒に活動するという環境が重要であると考えられている。

館長の話では、芸術家は教育目標をもって指導にあたる教員とは異なり、子どもの中に入り込んで同じ目線で課題を考えていくとのことだった。ワークショップ等では、良い作品を作るのが目的ではなく、自分にとって価値のある作品を作ることが重要であり、それを認めていくことが子どもの成長に大きく影響すると述べられていた。芸術活動は学校教育とは違うものだとは何度も繰り返されていたことが印象的であった。また、いわゆるボランティアは存在せず、施設の活動に携わるスタッフは全て有償で対応しており、実習生を受け入れる時も給金を支払うとの考え方は意外であった。

ZOOM子ども博物館は、恵まれた立地環境を活かし、主に芸術がもつ特性を活かして子ども達の感性と創造性を豊かにする活動を展開しており、その企画や運営は多くの若い芸術家達にも支えられている様子から、これまでにない体験型博物館に出会ったという印象であった。

✦ 中嶋美智子 (ガスの科学館)、飯田一紅子 (交通科学博物館)、山田友之 (かわさき宙と緑の科学館)

## ウィーン自然史博物館

### Natural History Museum Wien



ウィーンは、いたるところに彫刻が置かれ、歴史ある建物が佇む、日常の中で芸術を身近に感じる街である。そんなウィーンの中でも豪華でひときわ華々しく存在しているのが自然史博物館であり、世界でも主要な博物館のひとつであると称されている。入館してすぐ館長より「ここは、収集物の閲覧ができる場というだけでなく、出会いの場でもあるので、ぜひ、文化にも触れていただきたい」とのご挨拶があった。

ウィーン自然史博物館は、1889年に公開が始まった。最近では、例えば展示解説の英語表記やオーディオガイドの貸出など、ソフト面では時代に合わせた近代化が進められている。しかし、建物自体は歴史的に大変貴重な建物であるため、重要文化財の指定を受けており、配線を増やしたりバリアフリーにしたりするなどの近代化が難しい環境となっている。歴史を守りつつも近代化を進めて利便性を良くするための、多くの試行錯誤が続けられている。余談であるが、ここの建物の天井のフレスコ画は本物である。美術的にも価値があるフレスコ画は、館の展示物に合わせて作製された。館の天井に飾られたのは、画家が亡くなった後だそうで、画家自身は実際に現地で展示物を観て描いたわけではなく、展示物との意味合いは多少のズレているのかもしれないとのことであった。

展示室では魚類標本が多数展示されており、研修参加者からは、その技術の高さに感嘆の声が上がった。標本等は、外注してしまうと、博物館の意向が伝わりにくいという理由で、ほとんど館内で作製している。剥製師は、剥製作りの学校があるわけではないので、ここに就職してから技能を身につけて製作している。担当者は「誇り」を持って作製しているとのことだった。

ボランティアの有無を確認したが、この国には、ボランティアはほとんどいないとの回答だった。日本では、ボランティアが流行っているようだが、きちんと仕事をしている人には、きちんと給金を支払うべきだと私たちは考えているとのことだった。仕事のとらえ方は国によって違っているのだと感じた出来事だった。

学習支援活動としては、年齢別のガイドツアーを行っている。大人向けには、22時スタートのナイトミュージアムや、屋上に上ってウィーンの全貌をみて歴史を感じながらシャンパンを飲むツアー、剥製作りの現場をみるツアーなども行っている。また、小さな子ども向けには、『アクションツアー』と呼ばれる、いろいろな材料を使った「体験できる」ツアーを行ったりしている。また、ウィーンは外国人労働者が多いため、母国語であるドイツ語を子ども達に教えることも、プログラム上重要視しているとのことだった。

この他には、スーツケースに携帯電話を解体した部品を入れておき、学生に組み立てさせるプログラムもあった。携帯電話はみんなが持っているが、中身を見たことはほとんどないものなので、高校の先生方に人気があるプログラムのようなのである。

学生向けには、人骨による頭蓋骨の分析なども行っている。使用するのは、本物でないという意味がないとの理由から、全て本物の人骨である。子ども向けのプログラムでは、頭蓋骨に絵を描いておき、「絵の描いてある頭蓋骨」を展示室で探すプログラムもある。こちらもやはり本物の頭蓋骨を使う。本物を使っても大丈夫なのかという疑問に、「よく壊れるが替えはいくらでもある」という担当者の発言に、研修参加者は閉口してしまった。博物館で実物を使うことはある意味重要ではあるが、ものが人骨だけに、日本では考えられないプログラムである。



☆バックヤードの廊下にあった人骨の棚

自然史博物館の壮大なコレクションの中には、大切に育てられてきた歴史があった。歴史を大切に思い、守る人々が、世代を超えて受け継いできたからこそ、コレクションである。当たり前のようにこのような営みが続いていることを感じ、研修参加者それぞれが様々な思いを抱いたことだろうと思う。今回の研修では、多くの専門担当者から貴重な説明を伺うことが出来た。彼らからは、楽しく気高く、そして専門家としての誇りを感じることができた。そして、ガイドツアーなどにより、地元の人々や、より多くの市民へその思いが普及していくのだらうと思われる。このように守られた文化・芸術は、世代を超えて脈々と受け継がれていくだろう。

**TOKYO SCIENCE CO., LTD.**

ミュージアム・ショップ向/教育用地学標本



地学標本/化石・鉱物・岩石  
古生物/レプリカ・復元模型  
恐竜復元モデル

◆常設ショールーム：紀伊國屋書店・新宿本店1F TEL.03(3354)0131(代表)◆

Fossils, Minerals & Rocks  
**東京サイエンス**  
TEL.03-3350-6725 FAX.03-3350-6745  
http://www.tokyo-science.co.jp  
E-mail:info@tokyo-science.co.jp  
〒151-0051 渋谷区千駄ヶ谷5-8-2 イワオ・アネックスビル

Practical Specimens for Study of Earth Science

多くのコレクションは国の財産である。そこに住む彼らが作ってきた文化そのものも人も財産であり、とても羨ましい。「100年の建築物は3日で壊せるが、作るのには100年かかる」この言葉をリアルに感じる博物館であった。

✉三浦圭裕(盛岡市こども科学館)、今弓枝(国立科学博物館)

## レオナルド・ダ・ヴィンチ国立科学技術博物館

Museo Nazionale della Scienza e della Tecnologia

Leonardo da Vinci




### 1. 概要

レオナルド・ダ・ヴィンチ国立科学技術博物館は、1558年に建てられた旧修道院の宿泊施設を基に、第二次世界大戦後、ミラノ市を産業と科学で復興させる一環として市内に博物館を建てようと計画され、1953年に創立された。

1930年頃からアメリカのシカゴにある科学技術センターの協力により、展示品を集めることができ、この展示物は修復を重ねながら今でも当館のメイン展示の一つにもなっている。

敷地面積5万㎡、展示面積2万5千㎡、年間の入場者は約40万人、年間予算は約12億円で、国からの助成金が25%、企業スポンサーからの資金が75%である。職員数は127名(非常勤含む)、ボランティアと称する有償スタッフ60名、外部の科学コンサルタント180名である。

**Panasonic**



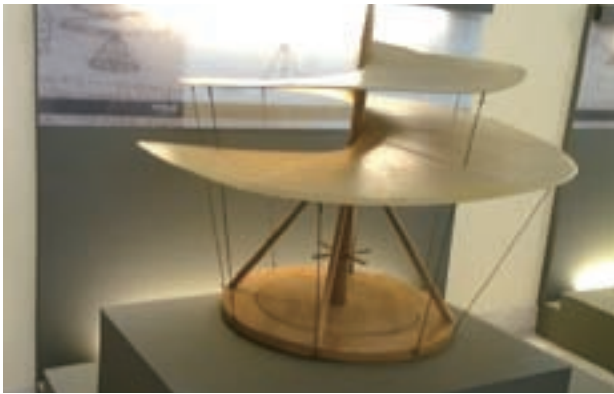
Core Products  
Security  
Communication  
Office  
Infrastructure  
Terminal System  
AVC Network

Total Solution  
マーケティング・セールス  
システムインテグレーション  
設置・施工  
保守・メンテナンスサービス  
クラウド・運用サービス

パナソニックだから、  
可能なソリューションがある。

apan

パナソニックシステムネットワークス株式会社 システムソリューションズジャパンカンパニー  
詳しくはホームページで [panasonic.co.jp/avc/psn/ssj/](http://panasonic.co.jp/avc/psn/ssj/)



☆レオナルド・ダ・ヴィンチの手稿から忠実に再現した復刻版モデル

前述の旧修道院宿泊施設が歴史的建造物としてミラノ市の保護法によって守られており、外観は工事等で手を加えることができず、建物の内部の展示空間構成を変えることで保護法と共存しながら博物館として運営されている。

1952年に施設内でレオナルド・ダ・ヴィンチの生誕500年の節目として「レオナルド・ダ・ヴィンチ展」を展示会として初めて開催したことから、彼の偉業を称えて現在の博物館の名称となった。

## 2. 展示内容

展示内容は、レオナルド・ダ・ヴィンチが創造した数々の産業機械の図面を基に、復刻版として製作された33の産業機械モデルが展示されたレオナルド・ダ・ヴィンチゾーンやマテリアル、エネルギー、テレコミュニケーション、トランスポート、バイオテクノロジーなどのニューフロンティアをテーマとした展示ゾーンがあり、産業という観点からの展示が多くあるのも当館の特徴の一つと言えよう。

レオナルド・ダ・ヴィンチ関連以外の展示については、各ゾーンとも展示テーマに合い、かつ技術等を普及させる目的を持つ企業がスポンサーとなり、キュレーター、外部コンサルタントとの会議でどのような展示内容・方法にするかを決定している。しかしながら、説明パネルのデザイン、

展示品のショーケースなどの意匠等は基本的に博物館スタッフ自らが製作・デザインし、展示室の改装などやむを得ずアウトソーシングしなければならない事は、必要最小限に抑えている。そのために、コスト管理やコンセプトのずれがないかといった確認は、徹底的に議論を重ねて展示するように心掛けている。

## 3. ラボラトリーの充実

この博物館の特徴として、もう一つラボラトリーの充実が挙げられる。ラボラトリーは館内に13か所あり、ロボット、ナノテクノロジー、食品、バイオテクノロジー等、内容は多岐に渡る。ラボラトリーのいくつかは、テーマに協賛するスポンサーを募り、ラボラトリー内で使用する教材（消耗品、備品類等）を提供してもらい運用している。説明用のペーパーを使った運用はなく、講師と参加者の対話、ハンズオンを含めた体感重視で運営されている。

ラボラトリー毎に責任者がいて、メンテナンスからワークショップ等の運営まで一人で管理している。

1回の開催時間は1~2時間で、一般入館者の場合は参加に対して予約は必要であるが、参加費は入場料に含まれているとのことで運用率も比較的高いとのことであった。見学時も学校などによる団体で来館したと思われる、中学生位の子ども達を対象としたワークショップを開催している場面を見ることができ、学校教育にも有効活用されていると感じ取ることができた。

## 4. その他

レオナルド・ダ・ヴィンチの図面を基にした復刻版の展示物は、「レオナルド・ダ・ヴィンチ展」として過去に上海EXPOやパリでの開催実績など様々なニーズに対しての貸出実績もあり、国内外問わずアウトリーチ活動にも力を入れている。

展示物としては前述以外にも、昔使われていた蒸気機関

— ご希望の恐竜・化石・動物・人類の標本及び模型を探しご案内いたします —

マラウイサウルス  
ティタノサウルス科  
全長—10m



株式会社 ゼネラルサイエンス コーポレーション  
〒107-0052 東京都港区赤坂3-11-14 赤坂ベルゴビル802  
TEL: 03(3583)0731 / FAX: 03(3584)6247  
e-mail: sizensi@shibayama.co.jp  
http://www.shibayama.co.jp

最先端3D天文シミュレーションと  
高解像度+高コントラスト映像によるクラス最高のフルドーム映写システム!!

MEDIAGLOBE-III (メディアグローブIII)

「メディアグローブIII」は定評のあるコンパクトな本体設計を受け継ぎながら、小型ドーム対応した単眼映写方式においてトップレベルの解像度(ドーム直径方向1536ピクセル)とコントラスト比(最大200,000:1)を実現しています。映像品質を決定づける映写レンズには、コニカミノルタの優れた光学技術を駆使した新開発のドーム映写専用高精細フィッシュアイレンズを搭載。さらに新機能として「映像歪み補正機能」を採用しており、「メディアグローブIII」本体をドーム内の壁面近くに設置しても、映写映像を電子的に補正することでドームスクリーン全体に正確な全天周映像を映写いたします。



コニカミノルタ プラネタリアム株式会社  
東京事業所 〒170-8630 東京都豊島区東池袋3-1-3  
大阪事業所 〒550-0005 大阪府大阪市西区西本町2-3-10 西本町インテス11階  
東海事業所 〒442-8558 愛知県豊川市金屋西町1-8  
URL: http://pla.konicaminolta.jp

TEL (03) 5985-1711  
TEL (06) 6110-0570  
TEL (0533) 89-3570



☆「バイオテクノロジー」ラボラトリー内のワークショップ風景

車、航空機、船舶、潜水艦などの静態展示もあり非常に見所の多い博物館であるが、細かい説明用のサイン表示の設置が少なく、展示物毎にサイン類を設置していくことが今後の課題であることを今回の対応担当者から聞くことができた。

ミラノ市の中心部にあり、歴史的な景観と調和した建物の中にある博物館として、市民の方々に親しまれている場所であると、今回の訪問で強く感じた。

浅川利昭 (船の科学館)、砂子賢治 (科学技術館)

## スイス交通博物館

Swiss Museum of Transport



**NOMURA**

人が集う場、そこにはいつも楽しさとか、おどろきとか、が溢れています。

Prosperity Creator  
**NOMURA**  
<http://www.nomurakougei.co.jp>

集客環境づくりの調査・コンサルティング、  
企画・デザイン、設計、制作施工  
ならびに各種施設・イベントの活性化、運営管理

株式会社 **乃村工藝社**  
本社：東京都港区台場2-3-4 Telephone 03-5962-1171(代表) 〒135-8622  
営業拠点：札幌・仙台・名古屋・大阪・岡山・広島・高松・福岡・那覇・北京・上海  
シンガポール・ミラノ・ニューヨーク

## 1. 概要

スイス交通博物館はスイス中部に位置するルツェルンにあり、交通機関の歴史や仕組みを展示するとともに、スイス最大のプラネタリウムやIMAXシアターも兼ねそろえた私立博物館である。施設全体での2011年度の来館者数は約73万人にのぼり、スイスの博物館の中では一番の入館者を誇る、大変大きな集客力を持つ博物館である。

同館は1959年にスイス国鉄、スイス郵便、スイス航空の三社の協力のもと創設され、現在、展示面積は約20,000㎡、収蔵面積は約7,000㎡、展示資料数約3,000点、収蔵資料数約5,000点、スタッフ数は総勢で187名となっている。年間運営費の50%は入館料や館内レストラン、ショップの収益でまかなわれており、40%が個人や法人からなるクラブメンバーからの年会費、残りの10%が国や州からの補助金である。ちなみに、スイスにおいては博物館の運営を支えるためクラブメンバーを組織することが一般的で、同博物館では32,369名のクラブメンバーが運営を支えている。市の中心部からは距離があるが、交通博物館らしく、付近には路面電車の駅、バス停、さらには船着場まであり3wayでのアクセスが可能と交通の便が非常に良い立地である。

館内は一つの建物ではなく、受付やレストラン、IMAXなどが入るエントランス棟の他、鉄道、自動車、船舶、航空機・宇宙と展示する交通機関ごとに建物が分かれていた。これらの展示棟では、どの交通機関の展示においても実物車両が数えきれない程、所狭しと展示されており、ゴンドラやリフトの実物展示などヨーロッパでは同博物館のみという車両の展示もあった。なお、実物車両展示のスペースでは食事会を開催することも可能で、年間で約400件開催されているとのことであった。こうした実物車両の展示においてはただ漫然と並べてあるのではなく、来館者の興味関心を高めるための工夫が施されていた。例えば鉄道の展

ここを動かす空間をつくりあげるために。

調査・企画、デザイン・設計、制作・施工、運営

**Tanseisha**

株式会社 丹青社 〒110-8549 東京都台東区上野 5-2-2  
TEL. 03-3836-7221(代表) [www.tanseisha.co.jp](http://www.tanseisha.co.jp)

札幌・仙台・新潟・名古屋・大阪・福岡・那覇・北京・上海

示では、車両の屋根上が見学できる中2階の通路や、車両の床下機器が見学できるピットが設けられており、さらには機関車の内部構造が見学できるように側面の板が外されているものもあった。こうした工夫は一部の車両が対象であったが、普段見られない部分を見学出来ることから、来館者に「来てよかった」と思わすことのできる工夫であると感じた。また、自動車の展示では、実物の自動車が6段の大きな棚にミニカーのように展示されていたが、見たい自動車を選択するとリフトにより前まで降りてくる仕組みとなっていた。大きな棚から大きなリフトが自動車を降ろしてくるという過程が展示に動きや変化を与え、展示への興味を高めることに繋がっているように感じられた。



☆実物自動車が展示されている棚

このような実物車両の他にも、航空機の操縦や列車の運転を疑似体験できるシミュレータや座席に座れるコーナー、道路建設が体験など体験型の展示も充実していた。また、来館者が自らTV番組を制作することができる「メディアファクトリー」やゲームを楽しみながらコンピュータ技術が理解できる「i-factory」といった最新技術を体験できる展示コーナーも設置されていた。「メディアファクトリー」では、来館者が制作した番組を展示室で公開したり、インターネットを通じて自宅で閲覧できるようになっていた。

**小型ヒューマノイドロボット**

**INAO**  
INTERACTIVE HUMANOID ROBOT

音声認識で  
こんにちは!

2足歩行  
ロボット

ふれ合う  
楽しさ

研究開発者に多く使われている2足歩行のヒューマノイドロボットです。福祉・医療・展示などで触れたり仕事を交わすことができます。

お問い合わせは  
TEL : 03-5952-9391  
http://www.revast.co.jp  
E-mail : revast-pdc@revast.co.jp FAX : 03-5952-9361

国内代理店  
株式会社 **リバスト**  
〒171-0014 東京都豊島区池袋2-68-12

※INAOはフランスのアルデバラン社の製品であり製品名です

## 2. 所感

展示室に入った瞬間、空中のスペースを埋め尽くすような大量の飛行機に圧倒された。やはり同館の魅力の一つは充実した実物車両展示が醸し出すその迫力であると思う。しかし、実物車両の迫力だけではなく、航空機のファーストクラスの座席をそのまま展示していたり、シミュレータが設置されていたり、実際に来館者が体験できる展示が随所に見受けられた。また、プラネタリウムやIMAX、ITやメディアに関わる技術など幅広い展示がなされており、交通博物館という名称ではあるが、多様性に富んだ展示内容であった。このように普段体験できないような体験ができることや多様性に富んだ展示内容もスイス交通博物館の大きな魅力であり、スイス国内で一番の来館者を集めている要因の一つであると感じられた。

✎ 佐々木崇 (盛岡市こども科学館)、川端英登 (交通科学博物館)

## ルツェルン自然史博物館

Natur-Museum Luzern



## 1. 概要

館長及び自然史研究の責任者に館内を説明していただいた。ルツェルン自然史博物館は州立の博物館であり、州の予算で運営されている。現在は特に環境問題に注力し活動している。スイスには13の自然史系博物館が存在するが、中央スイスでは唯一の自然史博物館である。年間の入館者はおよそ55,000人。他にスイスで大きな自然史博物館はバーゼル、ベルン、ジュネーブに存在する。

歴史的に、ルツェルン州はスイスの中でも農業によって発展しているという特徴がある。近年は産業を重視する風潮があるが、州の博物館として自然や農業に目を向けてもらうことが課題であると考えている。博物館の運営について予算の面では必ずしも理想どおりではないが、現代の今

この時期にこの地域で自然を考えてもらうことを使命と考えて活動している。

## 2. 展示

展示に使用している面積の1/3が企画展、2/3が常設展となっている。

企画展は6ヶ月毎に更新する。時宜にあったもの、来館者に関心をもってもらえるテーマを設定するようにしているとのことである。来訪時はペットに関する展示を行っておりペットに関する社会的問題もとりあげていた。

常設展は1978年に建物を建てて以来変えていない展示もあるが、年々変更を加えており、教科書的な展示から視覚的に訴え、「考えさせる展示」を基本的な考え方としている。

新しい展示として、銀行の金庫を模した通路中に入り、カードを小窓の横の溝に差し込むとその部分のみ小窓が開き、そこから昆虫標本が見られるという区画があった。解説はなにも加えず、学術的な内容は別の展示で伝えている。たくさんの標本の中から、一つひとつ標本をよく見るように工夫した結果であるとの解説があった。

また、生きている昆虫や魚も展示し、地域の自然を感じることもできるようになっている。



☆金庫を模した展示室の入口

基本的に、ケースに入っていない展示物は触れてもよく、企画展、常設展とも触ることができる展示、体験できる展示を重視している。館内では見学中の子ども達が、展示に触るだけでなく、しゃがんだり床に寝転んだりして、展示を体験して楽しんでいる様子が覗えた。

今後の課題としては、来館者を増やすための展示を考えていくこと、資料の重要性に目を向けてもらうために、一つの資料に関して掘り下げた展示を展開したいと考えている、とのことであった。

## 3. 教育活動

学校の先生が使用するための教材セットが10個用意されている。アタッシュケースに入っていて持ち出しやすいようになっており、年間の貸出数を正確に数えていないが、全てのセットについて利用率は高く、ほとんどが貸出中であることが多いそうである。この教材は先生が博物館で授業をする際に利用したり、博物館から借りて学校の授業で使用したりするもので、教材を使って博物館の職員が学校で授業をすることはない。

展示室では毎週1回テーマを変えて職員が話をするイベントがある。訪問時は企画展と関連してペットなど家庭の動物などについて話をしていた。

## 4. 調査・研究

研究用標本資料の収集も積極的に行っている。中心は植物と昆虫のコレクションで17世紀の標本も残っており、昆虫のコレクションでは特に貴重なものを何点か保管している。標本はこの地域の動物の生態の変遷、絶滅種の研究などに役立っている。他の地域と比較して自分たちの地域の自然を理解することも重要であることから、地域の標本だけでなく、寄贈や標本の交換等により世界中の標本を収集・研究の対象としている。

研究活動は形態的な分類研究だけでなく生態研究、分子生物学的研究も行っているそうである。

前日訪問したスイス交通博物館は、スイス一の入館者数があり、規模・内容においても国を代表する博物館であるという印象を強く受けたが、当博物館は、学校への支援活動などの教育普及活動に力を注いでおり、地域に根ざした博物館であると感じた。また博物館や展示に興味を持ってもらうために、環境問題など自然史を社会的な問題という側面からも積極的にとりあげていることが印象的であった。

✎土屋順子(国立科学博物館)、栗原健次(北九州市立自然史・歴史博物館)

## 研修全体を通しての感想

幸せにも複数回目の全科協海外視察の参加でした。しかしながら今回ほど興味深く思い出深い視察はなかったと思っています。と言うのも、これまでのすべての視察がアメリカ合衆国で、今回が初めてのヨーロッパ視察だったからです。その違いは、展示資料や手法から運営方法、あるいは地域社会との関わり方に至るまで、様々な面において顕



著で、比較検証的に視察できたことはとても有意義でした。複数回この研修に参加している立場から、少し切り口を変えて研修の感想を述べたいと思います。

さて、ヨーロッパと言えば、長くそして変遷に満ちた歴史によって醸成された絢爛たる芸術の宝庫である事は述べるまでもありません。研修行程にある博物館への訪問はもとより、私にとってもう一つの楽しみは美術館訪問でした。

まず、最初の訪問都市ウィーンはハプスブルク家の街。欧州最有力貴族が時と財を惜しまず集塊した美術品を堪能できるのが「美術史美術館」です。バロック美術を中心に世界でも屈指の規模と価値を誇ります。特に「ブリューゲル」「ヴェラスケス」「レンブラント」などのコレクションは圧巻で、日本に1点でも来れば行列が出来る名作の数々が所狭しと部屋まるごと展示されています。



☆ウィーン美術史美術館

また、ウィーンと言えば世紀末美術の天才「クリムト」を見逃す訳にはいきません。ウィーン滞在最終日、「ベルヴェデーレ宮殿」別名「オーストリア美術館」を訪ねました。「ユデイト」「接吻」などの不朽の名作から、アッター湖畔の風景画まで、原画を目の当りにして感動を禁じ得ませんでした。

そして、ウィーンは「音楽の都」でもあります。ウィーンフィルの本拠地「学友教会」でのコンサートにも行くことができました。しかし、こちらは語る資格がなさそうです…。

第二の訪問都市はミラノ。ここでのハイライトは、何と言ってもダ・ヴィンチの「最後の晩餐」です。原画を忠実に修復したその壁画は、明るいパステルカラーで浮き上がっていました。じっくり鑑賞する中、気が付けば、「ダ・ヴィンチコード」の仮説を検証していました。

そしてルネッサンス発祥の地フィレンツェを訪ねない訳にはいきません。時速300キロを悠に越すユーロスターに乗って2時間弱、これ程の高速鉄道だったとは知りません

でした。早速、メディチ家の財宝の山「ウフィツィ美術館」へ。石畳の街角で、個人旅行中の当社女性デザイナーに偶然遭遇。世界が狭くなったことを実感しました。美術館はまさにルネッサンス芸術の宝庫で、ボッティチェリの「春」「ヴィーナスの誕生」等は特に有名ですが、他にも「マザッチョ」「リッピ」から「ミケランジェロ」「ラファエロ」まで、ルネッサンス芸術のすべてがありました。

帰り道で仕上げのレストランへ。初日は1本だったワインが、この日は?本。気が付けば発車の時刻。奇跡的に乗車できたものの、歩き疲れも手伝って、復路は夢の中。終点ミラノ駅でシニョーラに起され、何とかホテルに帰還することができました。



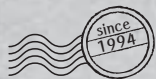
☆ユーロスター

ワインと言えば、コンサート前に入ったバルで、ウェイターが「アカ」「シロ」と片言ながら日本語で応対。「マンガ」で日本語を習っているとのこと。クールジャパンを実感しました。ちなみにこの日は2本で、コンサートは前半までしか持ちませんでした。

最終訪問地ルツェルンは、真っ白なアルプス、眩しい湖面の白鳥。まさにスイスのイメージどおりの街でした。しかしながら、驚愕的だったのは物価の高さ。「世界都市の物価レートはビック・マックが決める」と言いますが、なんと1個11ユーロ! そんな中、やはり強かったのは「中国人民元」。2万ユーロを超す腕時計を集团でまとめ買い。我々はと言うと、ラスト2晩は「買出し」「部屋飲み」で、私はとうとう3本超えでした。

参加者16名の視察団はコミュニケーション良くまとまり、とても楽しく充実した視察ができました。訪問の先々で得られた情報、体験は言うまでもなく、地元のワインを交えた「10名で1部屋飲み」が最高の思い出となりました。

✦ 北山浩二 (株)乃村工藝社



## ■ 企画展・特別展

英ニューカッスル科学博物館で、「科学・技術に貢献した女性達 国立肖像画美術館所蔵品展」を開催中

2013年3月8日から、イングランド地方の北部の都市ニューカッスルの科学博物館で、イギリスの科学と技術の発展に貢献した女性達の業績を紹介した企画展が、開催されている。24人の女性の業績が、ロンドンにある国立肖像画美術館所蔵のポートレート写真等で紹介され、石炭やグラフィイト、DNA、タバコモザイクウイルスの化学構造の解明に貢献した物理化学者、結晶学者のロザリン・フランクリン(1920~1958)をはじめ、難病であるデュシェンヌ型筋ジストロフィーの治療に貢献した遺伝学者ケイ・デイヴィス(1951~)が含まれている。同展は16歳から19歳までの女子を対象に、科学・技術分野への進路に関心をもってもらうことがねらいになっている。9月29日迄。

Trailblazers: a celebration of remarkable women in science.

Discovery Museum, Newcastle.

<http://www.twmuseums.org.uk/discovery/whats-on/exhibitions/trailblazers.html>

米フィラデルフィア自然科学アカデミーで、「マーク・ライタ写真展 世界の美しいヘビ」を開催中

2013年6月15日に、フィラデルフィア自然科学アカデミーで、写真家マーク・ライタによる写真展「世界の美しいヘビ」が開幕した。ライタは、広告写真をはじめ、風景写真や生物写真まで広く手がけている写真家として知られているが、今回ヘビの造形的な美を追究した図録「Serpentine」の出版にあわせて、今回の写真展が企画された。同展では、新大陸を代表する美しいホンジュランミルクスネークをはじめ、あまり見かけることがないブラックパキスタンコブラを含め、世界各地の美しいヘビが写真で紹介されている。9月22日迄。

Serpentine.

Academy of Natural Science, Philadelphia.

<http://www.ansp.org/visit/exhibits/serpentine/>

<http://www.wired.com/rawfile/2013/02/mark-laita-serpentine/>

米フロリダ自然史博物館で、「古代の巨大ヘビ・ティタノボア」展を開催中

2013年1月26日から、ゲインズヴィルのフロリダ自然史博物館で、かつて新生代古第三紀暁新世に、現在の南米コロンビアで生息していた大蛇ティタノボアを紹介した企画展が開催されている。地下の石炭層から発見された化石からの推定によると、全長が約16mで体重が1,134キロもあったようだ。8月11日迄。

Titanoboa: Monster Snake.

Florida Museum of Natural History, Gainesville.

<http://www.flmnh.ufl.edu/exhibits/limited-time-only/titanoboa-monster-snake/>

米アメリカ自然史博物館で、「ジム・デ・リヴィリエ写真展 蛾の美」を開催中

2012年9月29日から、ニューヨークのアメリカ自然史博物館で、ガ(蛾)を撮影した写真展が開催されている。作品は、蛾の写真を数多く写してきたことで知られているカナダの写真家ジム・デ・リヴィリエが、オタワ周辺で生息している蛾をカメラに収めたものだ。同展は、カナダ自然博物館が企画制作し、ロイヤル・アルバータ博物館(カナダ)を皮切りに、アメリカ自然史博物館の後に、世界各地を巡回する予定だ。9月29日迄。

Winged Tapestries: Moths at Large.

American Museum of Natural History, New York.

<http://www.amnh.org/calendar/winged-tapestries-moths-at-large>

<http://nature.ca/en/about-us/museum-news/news/press-releases/new-york-debut-canadian-museum-natures-moths-large-exhibition>

米パーク博物館で、「エルワー川の再生」展を開催へ

2013年11月23日から、シアトルのワシントン大学パーク博物館で、同州のオリンピック半島を流れるエルワー川(全長約72キロ)の再生をテーマにした企画展が開催される。同展では、水力発電を目的に建設された二つのダム(1913年完成のエルワー・ダムと1927年完成のグライズキャニオンダム)が、いかに環境を破壊し、流域に住む人々(先住民を含め)の生活を奪ったかを紹介し、さらに川のエコ

システムの再生を決めた連邦政府の決定と2011年9月から始まったダムの撤去工事の様子、および川の再生計画のビジョンが紹介されることになっている。同展は、シアトルの地元紙「シアトル・タイムズ」のリンダ・メイプス記者とダムによる深刻な環境破壊の様子を長年撮影してきた写真家スティーブ・リングマンの協力を得て企画制作され、同館での閉幕後、全米各地を巡回することになっている。同展では、リングマンが撮影した写真と、ダムによってサケ漁という重要な生活基盤を失った先住民族に関連資料（同館所蔵品）が展示されることになっている。2014年3月9日迄。

Elwha: A River Reborn.

University of Washington Burke Museum, Seattle.

[http://www.burkemuseum.org/exhibits/browse/elwha\\_a\\_river\\_reborn](http://www.burkemuseum.org/exhibits/browse/elwha_a_river_reborn)

#### 英ロンドン科学博物館で、写真専用の展示室をオープンへ

2013年9月21日にロンドン国立科学博物館で、写真を専用とした展示室がオープンする。「メディア・スペース」と呼ばれる新しい写真展示室では、ブラッドフォード市にある国立メディア博物館が所蔵する写真コレクション「National Photographic Collections」の写真作品が企画展として紹介されることになっており、国立メディア博物館の企画によって、現代の著名な写真家や新進の写真家の作品を紹介した企画展が計画されている。「メディア・スペース」と呼ばれる新しい写真展示室は500㎡の面積をもち、同館の2階に設けられる。オープニング記念展として、現代イギリスを代表する写真家マーティン・パー（1952～）とトニー・レイ＝ジョーンズ（1941-1972）の作品展「オンリー・イン・イングランド Only in England」が開催される（2014年3月16日まで）。写真展示室の総工費：400万ポンド。計画されている展覧会には、日本の写真家・杉本博司の写真展が含まれている。

Media Space / Only in England.

Science Museum, London.

[http://www.sciencemuseum.org.uk/about\\_us/masterplan/media\\_space\\_in\\_depth.aspx](http://www.sciencemuseum.org.uk/about_us/masterplan/media_space_in_depth.aspx)

#### ■ 新しい常設展

#### 米シカゴ科学産業博物館で、常設展「自転車の美」をオープン

2013年3月22日に、シカゴ科学産業博物館で、自転車の歴史と、市場で最も注目されている最新の自転車を紹介した常設展示がオープンした。歴史の展示では、同館の収蔵品の中から9台の歴史的な自転車が展示され、最新

の自転車を紹介するコーナーでは現在市場で最も注目すべき自転車14台が展示されている。歴史的展示の中には、1818年にドイツ人が発明した、ペダルを持たない木馬のようなドライジーネ型が選ばれ、また最新の自転車には段ボールで制作したユニークなものが選ばれている。いずれの展示品も、重要な技術的な特徴とひと目を引くデザインの美しさで選ばれている。

The Art of the Bicycle.

Museum of Science and Industry, Chicago.

<http://www.msichicago.org/whats-here/exhibits/art-of-the-bicycle/>

#### 米ボストン科学博物館で、常設展「ひとの生命」をオープンへ

2013年11月16日に、ボストン科学博物館で、「ひとの生命」という常設展示がオープンする予定だ。同展は、「ひとは生命をいかにして理解してきたか」をテーマにしており、生物学と生命工学の分野における、最新の研究成果が紹介される。展示規模：約1,000㎡。展示デザイン・施工：ケンブリッジ・セブン・アソシエーツ社（1962年設立）。

Hall of Human Life.

Museum of Science, Boston.

<http://www.mos.org/exhibits/hall-human-life>

#### 米ロサンゼルス自然史博物館、常設展「都市の形成：ロサンゼルスの場合」をオープンへ

2013年7月14日に、ロサンゼルス自然史博物館で、ロサンゼルス都市の形成をテーマにした常設展示がオープンする。1,400㎡の展示では、ロサンゼルスと周辺圏の発展にともなった周辺圏の生態系の変化が紹介されることになっている。

Becoming Los Angeles.

Natural History Museum of Los Angeles County.

<http://www.nhm.org/site/explore-exhibits/permanent-exhibits/becoming-los-angeles>

#### ■ 短信

#### エクスプロラトリウム、移転・新装開館（2013年4月17日）

新しい住所：Pier 15, San Francisco.

Exploratorium, San Francisco.

<http://www.exploratorium.edu/>

#### イタリヤ・ナポリ科学館、火事で全焼（2013年3月4日）

Citta della Scienza, Napoli.

<http://www.cittadellascienza.it/>

List of special  
exhibition!

## 9月10月の特別展等

開催館	展覧会名	開催期間
旭川市博物科学館	特別展「飛ぶ科学！空と宇宙への挑戦」	7月13日～9月16日
釧路市こども遊学館	夏休みイベント	7月27日～8月19日
盛岡市子ども科学館	特別展「科学者30人」	7月2日～9月1日
牛の博物館	夏季企画展「ふるさとの玩具－牛とあそぶ」	7月20日～11月4日
仙台市天文台	天の川とその付近の天体～夏・秋編～	7月2日～7月31日
	夏の企画展「うつす」	7月20日～8月25日
郡山市ふれあい科学館	ホワイエ企画展「スペースリング」	6月1日～8月31日
つくばエキスポセンター	特別展「理科おもちゃ大集合！」	7月20日～9月16日
ミュージアムパーク茨城県 自然博物館	第58回企画展「ぎょ・魚・漁－淡水魚の知られざる生態を追って－」	7月13日～9月23日
日立シビックセンター科学館	夏の特別展「ふしぎトリックアート展」	7月20日～9月1日
栃木県立博物館	企画展「野の自然・やまの自然」－平野部丘陵部総合調査から－	7月20日～9月16日
	テーマ展「とちぎのシャジクモ・フラスコモ」	7月20日～9月16日
那須塩原市那須野が原博物館	企画展「エビ×カニ LABO」	7月13日～9月29日
群馬県立自然史博物館	第43回企画展「甦れ!カミツキマッコウ 古代ゾウ －関東に眠る太古の生きものたち－」	7月13日～9月1日
埼玉県立自然の博物館	企画展「新参者昆虫図鑑－多様な埼玉のいきもの－」	6月22日～9月1日
千葉市科学館	夏の特別展「千葉市科学館に雪が降る!?～ハカセのヒエヒエ大作戦!～」(仮)	7月12日～9月1日
千葉県立中央博物館	「世界の音を聴こう!」	7月20日～9月1日
	「海の宝石 ウミウシ展」	7月13日～9月8日
我孫子市鳥の博物館	企画展「鳥の骨展－空飛ぶ鳥の骨組み－」	7月13日～11月30日
千葉県立現代産業科学館	展示会「ひらけ 未来ドア2013」	7月19日～7月28日
	夏の企画展「プラネタリウム上映会」	8月14日～8月25日
NHK放送博物館	思い出の中学生日記	7月17日～9月1日
	ざわざわ森のがんこちゃんと仲間たち	7月23日～10月20日
東京消防庁消防防災資料 センター消防博物館	夏の特別展「関東大震災から90年～あの時、東京は被災地だった～(仮称)」	7月13日～9月1日
板橋区立教育科学館	ロボットと科学技術	7月20日～8月25日
府中市郷土の森博物館	特別展 あしもとネイチャーワールド 「多摩川にアユが帰ってきた!」	7月20日～9月1日
	企画展 大西浩次 星景写真展～天・空の記～	4月20日～9月1日
	ミニ展 特別公開チェリャビンスク隕石 ロシアで起きた隕石落下	4月27日～9月1日
多摩六都科学館	夏の特別企画展「ロクト大昆虫展2013」	7月20日～9月1日
横須賀市自然・人文博物館	企画展「バードカービングで作った横須賀の四季の鳥」	7月20日～8月25日

開催館	展覧会名	開催期間
新江ノ島水族館	7月のテーマ水槽「美しきクラゲの仲間Ⅰ サンゴ編」	7月1日～7月31日
	クラゲタッチプール	7月13日～9月9日
	しんかい2000 クラゲ採集仕様公開！	7月13日～9月9日
	海月の宇宙～生命の神秘～	7月27日～8月31日
	8月のテーマ水槽「美しきクラゲの仲間Ⅱ イソギンチャク編」	8月1日～8月31日
	「クラゲ研究所Ⅱ」～子どもボランティアによる運営～	8月21日～8月27日
糸魚川市フォッサマグナミュージアム	特別展「ノーベル賞を受賞した日本の科学者」	7月1日～8月31日
上越科学館	トリックアート展Ⅱ	7月20日～8月25日
富山市科学博物館	特別展「レオナルド・ダ・ヴィンチ もう一つの遺産－ノートにのこした自由研究－」	7月20日～9月8日
福井県立恐竜博物館	特別展「発掘！ 発見！ 1億年の時を越えて～福井県恐竜化石発掘25年記念～」	7月12日～10月14日
佐久市子ども未来館	夏の特別企画展「恐竜展」	7月20日～9月1日
飯田市美術博物館	企画展「なんでもかんでもカタツムリ！－飯島國昭コレクション－」	6月29日～9月1日
岐阜県博物館	Nゲージ鉄道模型 作品・コレクション展	7月13日～8月18日
内藤記念くすり博物館	特別展示「くすりと医療の照古鑿今（しょうこかんこん）～漢方の源流と 医薬の近代化産業遺産～」 ※期間中展示入れ替えのため休止期間有り	4月26日～10月27日
大垣市サイトピアセンター 学習館	夏期特別企画「天文あいうえお展～かるたで学ぼう宇宙のふしぎ～」	7月20日～9月1日
光ミュージアム	夏の企画展示「太陽系と隕石展」	7月20日～9月1日
中津川市鉱物博物館	第17回企画展「教授を魅了した大地の結晶（はな） －北川隆司 鉱物コレクション200選」	7月13日～8月25日
静岡科学館 る・く・る	しずおか科学技術月間	7月13日～9月1日
東海大学海洋科学博物館	ふれてみて サメと海の生きものタッチプール	7月27日～9月1日
	夏まつり緑日水族館	8月13日～8月18日
ディスカバリーパーク焼津	夏の特別展「動く・見える・わかる！ からくり ザ・ワールド ～ハートの歯車、透明人間のベッド!? ふしぎな動きのヒミツを探れ！～」	7月13日～9月1日
豊橋市自然史博物館	第28回特別企画展「はてな？なるほど！ザ・カタツムリ」	7月12日～9月1日
碧南海浜水族館・ 碧南青少年海の科学館	小さな成功者「ハゼの魅力」	7月20日～9月1日
あいち健康の森健康科学 総合センター健康科学館	「～宇宙とからだの神秘をめぐる～ 出発!!!こども宇宙探検隊」	7月13日～9月1日
博物館明治村	MON? MON! MON!!	6月8日～9月1日
真珠博物館	ミキモト真珠発明120周年記念「知恵がいっぱい幸吉カルタ」展	4月20日～3月30日
滋賀県立琵琶湖博物館	水族企画展示「水中の忍者たち ～滋賀の水生昆虫～」	7月13日～9月1日
	企画展示「生きものがたり－生物多様性 湖国から 世界から－」	7月20日～11月24日

開催館	展覧会名	開催期間
大阪市立自然史博物館	第44回特別展「いきもの いっぱい 大阪湾 ～フナムシからクジラまで～」	7月20日～10月14日
交通科学博物館	夏休みイベント「TRAIN MODEL COLLECTION ～交通科学博物館の模型たち～」	7月20日～9月1日
神戸市立青少年科学館	わくわく宙学（そらがく）	7月20日～9月1日
阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター	夏休み防災未来学校2013	7月20日～9月1日
伊丹市昆虫館	特別展「いたこんカーニバル2013」	7月17日～9月1日
	プチ展示「日本のクワガタムシ2」	6月26日～9月30日
兵庫県立人と自然の博物館	昆虫Kidsのじゆうけんきゅう	7月20日～9月1日
姫路科学館	姫路科学館開館20周年記念特別展「夏のむし・ムシ大集合」	6月21日～7月8日
	姫路科学館開館20周年記念特別展「お化け屋敷の科学-3Dのひみつ-」	7月26日～9月8日
明石市立天文科学館	特別展「君も宇宙飛行士展」	7月20日～9月8日
橿原市昆虫館	第24回特別展「金魚と世界のカブトムシ・クワガタムシ展」	7月17日～9月16日
	田んぼの水族館 in 橿原市昆虫館	7月17日～9月16日
出雲科学館	世界の甲虫展2013	8月8日～8月25日
倉敷市立自然史博物館	第22回特別展「昆虫とあそぼうよ」	7月13日～9月16日
	秋の鳴く虫展	8月31日～9月16日
笠岡市立カブトガニ博物館	特別展示「時を超えた生き物たち」	7月20日～9月29日
広島市健康づくりセンター 健康科学館	企画展「色★いろ健康玉手箱」～元気をいろどる色マジック～	2月23日～7月14日
	企画展「わくわく！探検！あそびの広場」～カラダの不思議大冒険～	7月20日～10月20日
広島市江波山気象館	企画展「エバヤマ不思議サイエンス研究所」（仮称）	7月27日～8月25日
大和ミュージアム 呉市海事歴史科学館	巨大戦艦大和展－新発見による艦橋復元－	7月1日～1月27日
防府市青少年科学館	感覚トリック展	8月8日～9月16日
山口県立山口博物館	平成25年度企画展「発見！産業アドベンチャー」 ～世界にはばたく メイドインやまぐち～	7月12日～8月25日
徳島県立博物館	エイリアン・スピーシーズ－知られざる外来生物の姿－	7月19日～9月1日
徳島県立あすたむらんど 子ども科学館	第29回企画展「宇宙に夢中」	7月13日～9月1日
愛媛県総合科学博物館	特別展「南極の自然 ～研究者による観測活動とその成果～」（仮称）	7月13日～9月16日
佐賀県立宇宙科学館	夏の特別企画展「ジャングル～熱帯の森の生き物～」	7月13日～9月16日
宮崎県総合博物館	よみがえる恐竜時代	7月13日～9月1日
沖縄県立博物館・美術館	特別展「海・山・川のおくりもの目からウロコの大生き物展 －生物多様性ホットスポットJAPAM」	7月12日～9月1日

## リニューアル情報

### 国立科学博物館筑波実験植物園

[更新箇所] 研修展示館『つながる多様性』

[更新内容] 植物の多様性の不思議、かけがえのなさ、またそれを守るための植物園の活動を分かりやすく紹介するため、屋内展示を一新した。パネル・映像展示に加え、手で触れる展示やパズル、ゲームなどを通じて、多様な植物について子どもから大人まで誰もが楽しく学べるような工夫を凝らしている。

[公開日] 平成25年5月18日



### 鳥羽水族館

[更新箇所] へんな生きもの研究所

[更新内容] 聞いたことはあるけれど見たことがない生きもの。「なにこれ?」と思わず叫んでしまいそうな生きもの。不思議な形や生態を持つ生きものたち約55種300点を集めた新コーナーがオープン。

[公開日] 平成25年7月13日



### 新江ノ島水族館

[更新箇所] クラゲの研究コーナー「クラゲサイエンス」

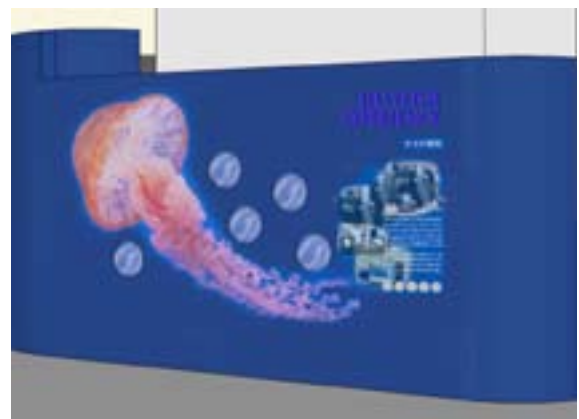
[公開日] 平成25年7月20日

[準備期間] 6ヶ月

[更新箇所] クラゲファンタジーホール

[公開日] 平成25年7月20日

[準備期間] 6ヶ月



# 平成25年度 第1回総会等を開催しました

平成25年6月13日国立科学博物館において、平成25年度第1回理事会・総会を開催し、81館108名の加盟館園の皆様に参加いただきました。総会では、平成24年度事業報告などの議事に続き、キッズプラザ大阪の内山十糸子さん、越谷市立児童館コスモスの中村直人さんより平成24年度海外先進施設調査についての報告、文部科学省の坪田知広社会教育課長より行政説明をいただきました。また、国立科学博物館特任研究員であり、前研究調整役・動物研究部長の松浦啓一氏より「自然史研究のイノベーションを目指す自然史系博物館」というテーマで記念講演いただいた後は、場所を館内レストランに移して懇親会を開催しました。

翌14日は、平成24年4月に移転が完了した国立科学博物館筑波研究施設において施設見学を行い53名の方に参加いただきました。4班に分かれて、公開収蔵庫からは乳類、魚類、古生物、人類、植物、理工学などの収蔵庫および筑波実験植物園のバックヤード等を研究者の解説を交えて見学しました。見学会を通じて他館の方々と交流もできたのではないかと思います。

なお、第2回理事会・総会および第21回研究発表大会は、平成26年2月20日、21日に北九州市立自然史・歴史博物館において開催します。皆様のご参加をお待ちしております。



6月13日 総会



6月14日 施設見学

## 編集後記

前号250号で全科協及び全科協ニュースの歴史をご紹介しましたが、いかがでしたでしょうか。記事の掲載にあたり事務局でも過去の全科協ニュースを練りながら、へえ～ほお～と感嘆しきりでした。その気持ちを少しでも共有できれば幸いです。また、前号からカラーページを加えて紙面をリニューアルしています。これからも編集委員会で検討しながら、より読みやすく皆様に有用な情報を提供していけるよう努力していきたいと思います。



全国科学博物館協議会

### 全科協ニュース編集委員

佐久間大輔(大阪市立自然史博物館学芸課学芸員)

田代 英俊(科学技術館企画広報室長)

島山 泰英(株式会社キウイラボ代表取締役)

平濱美紀子(ディスカバリーパーク焼津主任)

高尾 敏史(国立科学博物館事業推進部連携協力課長)

### 全科協事務局

国立科学博物館 事業推進部 連携協力課(担当：園山)

TEL 03-5814-9863 FAX 03-5814-9898

発行日 平成25年7月1日

発行 全国科学博物館協議会©

〒110-8718 台東区上野公園7-20 国立科学博物館内

印刷 株式会社セイコー社